



## ドームですよっ！ ドームっっ！



Written by Design Dept. Takashi Aoki

このタイトルを見て、皆様はどのドームを思い浮かべるでしょうか…。お久しぶりです、ハリオサイエンス製作担当の青木です。今回は大阪府に鎮座する京セラドーム、そこでの体験談の一部を題材として、記事を書いていこうかと思います。お時間あればお付き合いください。

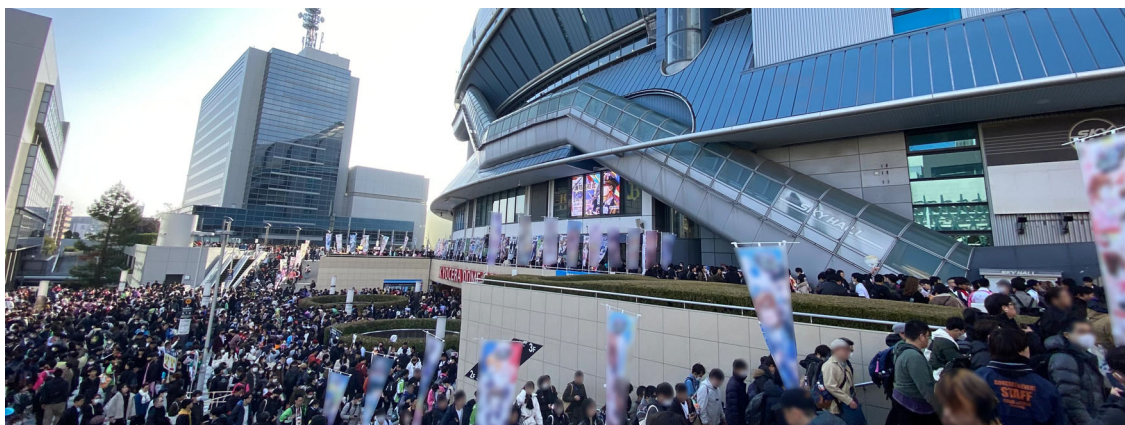
昨年度から某コンテンツがきっかけとなり、過去20数年間体験していなかった「音楽ライブ」への参加という、中々に底が深い沼に嵌りかけている私ですが、現地3回目にして京セラドームという、日本最大規模の舞台を経験することになりました。京セラドーム自体は、その昔「大阪ドーム」という名前だった時代に、幼少の頃ホビーフェア開催地として現地に赴いた事はあったのですが、その記憶は殆ど抜け落ちており、ほぼ初見の感覚に近いものでした。

私が参加したライブは、壇上での演者パフォーマンス以外に、今回教わったコールその①、通称「P×3 H」観客側のコール&レスポンス(以下"コーレス")の応酬が非常に根強い文化としてあり、現地で3万人以上の観客が発声したコーレスは、誇張抜きに「地鳴りか？」と思う程でした。当然私もそのコーレスに参加していますので、週明けにはしっかり喉を壊しました。次回以降、同ブランドのイベント参加時にはのど飴を日程分持参したいと思う次第です。



該当ライブのコンテンツは昨年で20周年を迎えた"超"長寿ブランドであり、その界限に浸かり始めて半年も満たない私にとっては、「100%楽しむことができるのか？」と心配していましたが、永年そのコンテンツを嗜んでいる友人の優しいサポート※1もあり100万%楽しむことができました。経緯はさておき、この年で改めて友人の存在に感謝できた。思い返すと、そんな体験もこのライブには詰まっていたのだなぁ、と感慨深くなった大阪の旅でした。

※注釈1: ブランド全合計約1850曲から170曲を選定し「この辺りがメジャーどころだから、当日コーレス出来るように」と9月上旬頃にAmazon Musicのプレイリストを渡してくる



ハリオサイエンス 株式会社

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9-3

<https://www.harioscience.com>

TEL.03-6861-5602 FAX.03-6861-5603